

諫早湾に「青潮」 貧酸素原因

長崎県の諫早湾で15日、海面が青白く変色する「青潮」とみられる現象が起きた。海中の酸素欠乏が原因とされる。同湾沿岸などでは12、13日に魚介類の大量死が見つかっており、専門家は「貧酸素が一因だった可能性を示している」と指摘している。

写真撮影した諫早市の坂田輝行さん(60)によると、15日午後3時ごろ、国営諫早湾干拓事業

で造られた潮受け堤防外側の海面が、南北方向に約7キロ、東西方向に数百メートルにわたり青白くなっていた＝写真＝。

独立行政法人・水産総合研究センター中央水産研究所の元所員で、海洋化学が専門の佐々木克之さんによると、海底近くの水が酸欠状態になると硫化水素が発生する。硫化水素が大気に触れて酸化され、硫黄の粒子が生じ、光を反射することなどが



ら、海が青白く見えると考えられている。

佐々木さんによると、海中酸素濃度が30%を下回ると魚類の生息は困難という。農林水産省

によると、潮受け堤防の北部排水門近くでは、13日午前5時～15日午後3時の海中酸素濃度は3%以下、坂田さんが撮影した時間帯は1.8%だった。